



UU now

発行：宇都宮大学 編集：広報室
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp>
E-mail plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



日本航空インターナショナル 客室乗務員

金田 瞳

Kaneta Hitomi

【かた ひとみ】群馬県富岡市出身。2002年宇都宮大学国際学部国際社会学科卒業。同年、日本エアシステム（JAS）入社。現在、日本航空インターナショナル（JAL）のキャビンアテンダント（客室乗務員）として、シカゴ、ロンドン便をベースに国際線に乗務。

私は飛びたかった

OB INTERVIEW

夢を叶える人はまた次の夢を叶える

「夢って叶うものですね」。高校生のときに憧れた客室乗務員。「国際的な仕事でしたかった」。留学生との交流が貴重な体験となった大学時代。ゼミの担当教授には「航空会社に内定をもらうまで卒業は待ってください」と協力を取り付けた。「夢は追いかけていられるだけではダメ。アプローチしなくちゃ」と微笑む。

（取材／国際学部4年・小泉静香）

夢を叶えて見る景色

「地上からは白く見える飛行機雲が上空からは黒く見えるんですよ」「大阪の上空から前方後円墳がはっきり確認できました」。取材前日、上海からのフ

ライトで見た印象的な光景を、楽しそうに話す。「上空から、いろいろなものが見えます。本当に地図通りのカタチをしているのでびっくり。よく地図と見合わせま

す。大学で地理歴史の教員免許を取りましたが、この仕事でも、それが生きています」。現在は、シカゴとロンドンの便をベースに国際線に乗務。1年の3分の1は確実に海外

にいる。「いろんな国に行って、いろいろな人と話ができて、幸せだと思います。オフィスワークをしていたら出会えないような人たちと巡り合えます」。「英語が達者でなくても、日本語交じりで一生懸命話せば通じます。気持ちを通じ合えば、うれしい。相手のことが自分の家族のように、とても大切な人に思えるのです」。

「JALは、これから変わっていくと思います。そのときに自分の考えやアイデアを出していくって、それが機内で生きていけばいいなと思っています。たとえば、温かみのある機内にしたかったら、手書きのワイヤリストをつくってお出ししています。楽しんで乗っていただきたいですね。飛行機に乗った瞬間から旅はスタートしてしま

「強い思いが次へつながらず、自らの選択に迷いがなかったわけではない。世間的に名の知れた会社に入ることが自分にとっていいことなのか、会社の大小にかかわらず自分のやりた

国際学部での学びが世界へ目を向けさせた

国際学部で留学生と過ごす日々は、刺激的だった。「育った地域では、外国人が周りに少なかっただけに、そういう環境に自分がいられることが幸せでした」。

時間があれば教授の研究室を訪ね、海外の情勢についてレクチャーを受けた。履修している授業とはまったく関係のない教授の研究室にも積極的に足を運んだ。西アジアに詳しい教授からは、政情不安な現地の情報を聞き出した。

ゼミの担当教授のもとには毎日のように通った。「研究室のドアを叩いても返答がなくて、『あれ、先生まだ来てない』ということも何度もありました。先生には『私、客室乗務員になりましたので、協力してください』って

「いま、いろんな国のニュースが流れていると、ふと立ち止まって聞き入ってしまう。国際学部で勉強していきなかつたら、そして、いまのような仕事をしていたら、聞き流していたでしょうね。国際学部で培っ

た『世界を読む力』が『どこか遠くの国』から『身近な国』へと変えてくれます」。

「夢を叶えた人は、次の夢を叶える力を持っていると思います。難しい算数の計算を解けた小学生が、それを自信にして、もっと算数の勉強を頑張ろうとするように、次の夢を叶えるために自然に動き出すことができます。入社9年目のいまでも、毎日が『すごく新鮮』に感じられる。『私、目隠ししていても匂いのでこの国の空港かわかります。その国の匂いがあるんです。面白いですね。本当に世界各国、いろいろな匂いがあります。知らない世界で初めて目にする物事はとても新鮮。私にとっては飛んでいることが幸せ。飛ぶことを通して多くの人々に、そして、新しい世界に出会えることが私の幸せ。私の夢はこれからも続いていくのです」。

（文：ピオス編集室／撮影：本原悠葉）

CAMPUS



宇都宮大学ブランドを考える

宇都宮大学のさらなる発展と創造へ向けて

創立60周年を記念して、「宇都宮大学ブランドを考える」をテーマにしたシンポジウムが、峰キャンパスの講堂で開催されました。宇都宮大学や栃木県に縁の深い方々を講師に招き、基調講演、パネル討論を通して本学の在り方、進むべき方向について考えました。その概要を紹介します。

開催にあたって

本学の在り方を問い直す

—進村武男学長—

創立60周年を記念しまして、5名の講師の方をお招きし「宇都宮大学ブランドを考える」をテーマにしたシンポジウムを開催することに致しました。

講師の先生方には、本学の研究、教育、社会貢献活動に対して、それぞれの目でご教示、ご指摘いただければ幸いです。

基調講演、パネルディスカッションの内容を十分に参考にさせていただきます。ブランドの明確化を図って、これからの本学の在り方、進んでいく方向、存在意義をあらためて問い直し、さらなる発展に向け鋭意努力していく覚悟です。

これまで諸先輩の皆様が営々と築いてこられた輝かしい伝統、知の蓄積をさらに築き上げながら後世へときちんと引き継いでいくため精一杯頑張りたいと思います。今後とも、ご指導、ご支援を賜りたいと思っております。



進村武男学長

創造し続けること

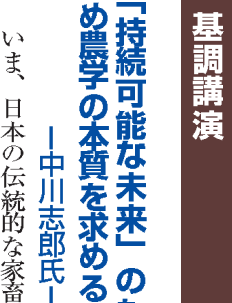
—田原博人元学長—

宇大は決して大きな大学ではない。小さいことのメリットを見つけて活かしていくことが大切。まず学外の人との絆を大切にする。大学も個人も孤立した中で半人前ですが連なることでは一人前になります。地域には優れた知がある。地域と大学がお互いを活かして協働することです。学内の観点では、一人ひとりの活動が小さい大学だけに見えやすい。個々の能力をしっかりと把握し活かす工夫ができる。機動力を活かせば、規模が小さいことは改革でプラスに変える大きな力になります。

ブランドの基盤は幅広い人の絆を大切にすることであり、地域との先進的な連携にあるのではないかと思います。そしてブランドは、あるものを見つけてのものではなく、創造し続けることでつくられていくのだと思います。



田原博人元学長



中川志郎氏

「持続可能な未来」のための農学の本質を求め

—中川志郎氏—

いま、日本の伝統的な畜産である和牛や馬の種がどんどん失われています。生産効率一辺倒の中で、日本人とともに歩んできた種が、いま、風前の灯になつていく。私たちが人間がやっていること、私たちが絶対と信じている科学というもの、本当に人間のためになつていくのか。本当に、自然、生物のために貢献しているのだろうかという思いがあります。

私たちは生物の多様性を守らなければなりません。現在の私たちの文化が多様性を否定する生活をつくり出していると思われからです。

学問の府である大学が地域と密着することは大切です。宇大が地域貢献度の高い大学であることを知り非常に安堵しました。なぜなら、本場の意味での生物学、自然科学は地べたに引付いたものでなければならぬ。そこからしか真の農学、生き物の文化は生まれてこない。利益優先、物の豊かさのみを追い求めていては、人間を含めた生き物の幸福、私たちの子孫のための「持続可能な未来」はやってこないのです。

栃木県は豊かな自然に恵まれています。大学を出て広く地元の人たちと交流し、連携・協働してほしい。農業・自然というものと結びついて、本当の意味での自然科学に基づいた農学というものを築いたときに、人間を含めた生き物の幸福がくるのではないのでしょうか。そのため宇大が貢献することを大いに期待しています。



中川志郎氏

「比較優位」の立場で教育の在り方を考える

—須藤 稔氏—

ブランドづくりの目的は、ブランドの連鎖を生むことです。価値やイメージ、存在感を高め、より有為な人材を輩出することにより、宇大を志し入学してくる学生も増えてきます。

ブランドづくりでは、まず行政と支え合い、栃木県と宇大が連携して対応できる方策を考えていくこと。2つ目は「比較優位」の立場から教育の在り方を考えること。私は県立高校の校長に対し有名大学への合格者数を競うような「絶対優位」ではなく、それぞれの地域の中で「自分の高校はこういう形で生き残りをかけ、特色ある教育により3年間とだけだけの学力をつけさせることができるのか」

比較優位という立場から大学の在り方を考えていくことが、将来を見越した大学の存在意義につながるのではないかと思えます。教育学部に関しては、優れた教員の養成をお願いしたい。教員採用試験が厳しい状況の中、教員になれる確率をより高めていくことが、教育学部のブランドの大きな役割になります。



須藤 稔氏

教授という真の大人が指導する「寺子屋教育」

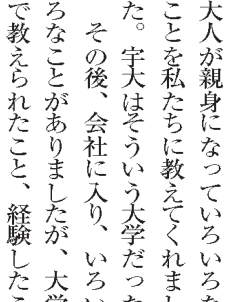
—広瀬真人氏—

60年という長い期間の間に育んできた宇大の良いところを、如何に抽出して再認識し、そこを今後伸ばしていくことがブランドづくりには大事なことだと思います。本当にやらなければならぬところにヒト、モノ、カネをつぎ込んでいくという姿勢が大切です。大学の良いところをより深めて、目的に沿った

子どもを県外に出したがらないという保守的な土壌のある本県では、親の心をつかむことが必要です。ぜひ、宇大のPRをしていただけたらと思います。そういう機会があればお手伝いさせていただきます。

国際性、多様性の中で知識を深め視野を広げる
宇大在学中は、マンモス大学では味わえない「人の和」、「自然への親しみ」を感じる事ができました。和は、人と人が仲良くすること、お互いが譲り合うこと、うまく混ざること。宇都宮のまち並みやキャンパスに漂っている「悠久」を感じさせる雰囲気の中で、学間に、そして自然に親しむことができました。この悠久という言葉で言い

宇都宮大学創立60周年記念シンポジウム
日時：平成21年11月22日(日) 会場：宇都宮大学講堂
主催者挨拶 進村武男 宇都宮大学学長
招待者挨拶 田原博人氏 元宇都宮大学学長
講演者：パネリスト
中川志郎氏 宇都宮動物園園長
須藤 稔氏 宇都宮農林専門学校(現農学部) 出身
広瀬真人氏 栃木県教育長 教育学部出身
山梨英和大学助教 国際学部出身
元白鷺大学教授 元NHK解説委員
元白鷺大学理事・副学長
海邊直樹 宇都宮大学理事・副学長
コーディネーター
李 尚珍氏



広瀬真人氏

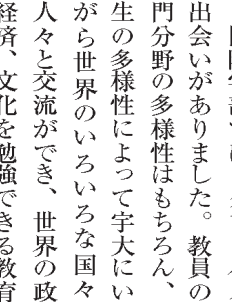
国際性、多様性の中で知識を深め視野を広げる

—李 尚珍氏—

私には人づくりだと思います。一番は人づくりだと思います。私は、大学で素晴らしい教授に出会うことができました。言葉遣いからご飯の食べ方まで、公私にわたって、その教授に鍛えられた。「寺子屋教育」というか、公私ともども、教授という真の大人が親身に教えてくれたことを私たちに伝えてくれました。宇大はそういう大学だった。その後、会社に入り、いろいろあることがありましたが、大学で教えられたこと、経験したことが、いろいろな意味で頑張っていく糧になつていったと思えます。

そういう寺子屋教育が、ゆつたりとした中でやっていると、雰囲気、環境を、ぜひ残していきたい。これは10年、20年と続いていく文化です。こういうものをブランドづくりの中に活かしていくっていただければと思います。

国際学部を活かし美学分野を世界に発信
—平山健太郎氏—
私の家内の姉夫婦が宇大の卒業生。義兄は農学部(林科)の出身で友達がたくさんいました。県外の人が多く、卒業後郷里に帰り県の農政部長や自治体の首長として活躍していますが、今でも濃厚な付き合いをしています。



李 尚珍氏

国際学部を活かし美学分野を世界に発信

—平山健太郎氏—

国際学部の卒業生たちは、鍛えられた国際感覚を活かしてさまざまな分野で活躍しています。在学中に育まれた学問、知識、技術などを卒業後に社会に役立てるものとして輝かせる、その力こそ宇大が目指すべきブランド力ではないかと思えます。

表せる環境が、宇大のブランドと言つてもいいと思います。国際学部では、グローバルな出会いがありました。教員の専門分野の多様性はもちろん、学生の多様性によって宇大にないから世界のいろいろな国々の人々と交流ができ、世界の政治経済、文化を勉強できる教育環境がありました。一つの学問分野にこだわることなく視野を広げて、とことん追求していく環境こそ国際学部の強みであり、私自身、自分の生き方を変える研究テーマに出会うことができました。

表せる環境が、宇大のブランドと言つてもいいと思います。国際学部では、グローバルな出会いがありました。教員の専門分野の多様性はもちろん、学生の多様性によって宇大にないから世界のいろいろな国々の人々と交流ができ、世界の政治経済、文化を勉強できる教育環境がありました。一つの学問分野にこだわることなく視野を広げて、とことん追求していく環境こそ国際学部の強みであり、私自身、自分の生き方を変える研究テーマに出会うことができました。



平山健太郎氏

CAMPUS



す。実に仲がいい。私も、ときどき、その遊び仲間に入れてもらいますが、謙虚で誠意に満ちた素晴らしい人たちで、宇大はいい大学だなという印象があります。

宇大には、地域共生研究開発センターのような立派な組織があつて、県内外を問わず手広く社会貢献していることに感心します。農学部、工学部という実学の分野に国際学部が関わっていくことで世界に発信していくことができるのではないかと。そういう意味で前途洋々たるものがあります。

NHKの番組で、留学生が橋渡しとなり大学教授が留学生の母国バングラデシュの生活改善のための情報端末を開発、それにノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌスさんが総裁を務めるバングラデシュのグラミン銀行が強い関心を示していることが紹介されていました。留学生がそこまで役に立ってこれているのかという感動があつた。これは、実学振興と国際化のモデルとして参考になるシナリオではないかと思ひます。

また学長や副学長など大学のトップが直接記者クラブに向向き定例の会見を開き広報活動をし、まちの声を吸い上げること効果があると思ひます。



渡邊直樹理事・副学長

須藤 昭和30年代、私がお世話になったころは教員免許を

取得できる県内の大学は宇大だけでした。つまり宇大が存在すること自体に価値がありました。いまは教職課程のある大学が増え多様な選択ができるようになりました。宇大に学ぶことの価値、学生にとってどういうメリットがあるのかを考えていく必要があると思ひます。

中川 かつて日本博物館協会の会長を務めていましたが、そのとき、全国に約1200ある博物館にそれぞれのミッションを明確にするようにお願いしました。そうすることによって学芸員の意識が変わったのです。各博物館はミッションを定めるため自己評価を徹底的にやりました。宇大もそれをやってみてはどうでしょうか。自己評価することで見えてくるものがあります。それこそが宇大のミッションになっていくのではないのでしょうか。

渡邊 本学は第二期中期目標の中で「小さくとも、きらりと光る、宇都宮大学」を目標に掲げています。これをビジョンとして、これからの本学をみんなで創造していきたいと考えています。宇大の強みと特徴は、人間と地域、つまり「人材養成」と「地域貢献」だと思ひます。このシンポジウムは、「宇都宮大学のさらなる発展と創造に向けて」と副題をつけています。本学の10年後のビジョン、ミッションについてパネリストにコメントをいただき、多様な本学のイメージ、価値観を皆さんと共有したいと思ひます。

「価値観の多様性を認める人材を育てることが大切」

平山 いまの若者はインターネットに依存しすぎている。本を読んだり実際に現場に向いて自分で確認・検証する姿勢が必要です。国際的なことに興味のある学生は、留学生と付き合ったり、NGOに参加したりしてほしい。

「教職員と学生が一緒になって自分の大学を良くしよう」という努力を、これからはやり続けなければならぬ」

「大学のブランドは、先生で決まる。どれだけ本気で学生と対峙できるか、それに尽きる。学生は、自分のことを真剣に考えてくれる先生を慕う。先生の「ハート力」日本一を目指してほしい」

「4つの学部がもっとリンクしていくことが、今後の宇大のあるべき姿」

「地方分権・地方自立」という流れの中で、今後、地域と大学の連携の重要性がさらに増すことが予測されます。「地域に学び、地域に返す 地域と大学の支え合い」のモットーを再認識し、地域と本学の架け橋となるよう、センター関係者一同がんばってまいります。

「価値観の多様性を認める人材を育てることが大切」



様々な意見が飛び交ったシンポジウム

国際学部設立15周年記念シンポジウム

平成21年11月25日、26日に峰キャンパスの学生会館多目的ホールにおいて、500名を上回る参加者を得て国際シンポジウム「『多文化公共圏』を考える-国際学の構築に向けて-」が開催されました。

同シンポジウムは、平成19年度から平成21年度にかけて宇都宮大学重点推進研究として実施された「『国際学』としての『多文化公共圏』研究」の成果として、開催されました。この重点研究では、地域と国際社会における多様な人々の討論・合意形成の仕組みとしての「多文化公共圏」を先進的「国際学」として理論的・実証的かつ具体的に提起するために、国際学部教員と大学院国際学研究所博士後期課程の学生等が3年間にわたって研究を行ってきました。

初日第1部研究報告では、6名の国際学部の教員が3年間の重点研究の報告を行い、アジア・欧米各国の事例に関する活発な議論が出されました。2日第2部基調講演「公共圏の創出に向けて-問われる共生の思想と友情-」では、田巻松雄多文化公共圏センター長から公共圏の在り方を巡る問題提起が出されました。

最後の第3部パネルディスカッションでは、海外・国内から招聘された6名のパネリストが「多文化公共圏を考える」発表を行い、アジア・欧米諸国における事例についての積極的な議論が展開されました。

様々な意見が飛び交ったシンポジウム

地域共生研究開発センター創立20周年記念式典

宇都宮大学地域共生研究開発センターが創立20周年を迎えるに当たり、同センターを支えてきていただいた地域の皆様への本学の感謝の気持ちを表す機会として、平成21年11月6日にホテルニューイタヤで「宇都宮大学創立60周年記念事業 宇都宮大学地域共生研究開発センター創立20周年記念式典」を開催しました。

式典では、学内外から約150名の方々にご参加をいただき、同センターが歩んできた20年を振り返るとともに、官公庁及び地域企業の方々から、今後の同センターが進むべき地域連携の方向性を示唆するご講演を賜りました。これまでの大企業を中心とした産学官連携に加え、異分野間の連携や中小企業との連携を活発にする新しいステージへと産学官連携が移行する時期にあるという認識を地域の皆様と共有することができたと思ひます。

大勢の方々にご参加いただいた式典の様子

オプティクス教育研究センター竣工記念式典

平成21年10月に待望のオプティクス教育研究センター棟が完成し、その竣工を祝しまして、竣工記念式典及び記念講演並びに祝賀会を平成22年2月19日に挙行いたします。

記念式典及び祝賀会では、同センターの発展のためにご尽力いただきました方々からご祝辞をいただくこととしており、そのほか同センターの概要説明、施設見学、さらに小池康博慶應義塾大学教授による記念講演を行います。

同センターは、キヤノン株式会社から宇都宮大学に日本の光学技術教育再構築の働きかけがあり、日本の光学技術産業を担う技術者の育成と先端光学技術の創成を目的に、両者が協力した光学技術に関する教育研究組織として平成19年に設立されました。

キヤノン株式会社から大学院授業担当講師の派遣を受け、また、同センター担当教員の研究概要をキヤノン株式会社へ提供するなど、キヤノン株式会社との連携により、オプティクス分野を十分に修得した人材の育成や先端的研究領域の創成に取り組んでおります。

オプティクス教育研究センター棟の完成を契機に、わが国統一の教育研究拠点形成を目指し、今後さらに全力を挙げて邁進いたします。 (*掲載内容は平成22年1月15日現在のもの)

昨秋に竣工したオプティクス教育研究センター棟

REPORT

宇都宮大学 地域貢献

宇都宮大学地域貢献支援事業

本学は、「地域に学び、地域に返す。地域と大学の支え合い。」という考えのもと、社会との連携活動を推進しています。今回は平成20年度の活動の中から次の3つの事業を紹介します。



綿わた収穫祭での綿摘み体験

分類されます。私は和綿の歴史性そこに秘められた循環思想を広めようと、2年前に「とちぎコットンボール銀行(※)」を設立しました。

江戸時代の綿織物は非常に貴重で、栃木県では真岡木綿が隆盛を極めていました。藍染は綿織物を強くすることから、何度も染め直して大切に使われました。さらに、それらが古品として東北地方などで再利用され、最終的に裂き織りになり、夜着など寒さからいのちを守る衣服として極限まで使われてきました。そこにも循環思想を生かした環境教育の実践的研究の一環として本事業を構想し、2年目の活動になりました。

和綿を活用した異世代間
交流事業
教育学部 佐々木和也 准教授

江戸中期以降、庶民も使うことが許され、藍染文化と共に定着した綿。ジャパンブルーは、そのような歴史の中から生み出された代名詞といえます。しかし、繊維産業が近代化した明治期より綿の輸入が始まり、今では自給率0パーセントである一方で、使い捨てに過ぎない自然の恵みの一つです。



保育士と一緒に綿織り体験



本学のバイオサイエンス教育センター(ゲノミクス研究棟)において分離した酵母の遺伝子解析を行った栃木県立栃木農業高等学校食品化学部のメンバー

宇都宮大学農学部では、農学部附属農場の生産物を利用した宇都宮大学ブランドの製品づくりを行っており、特別純米酒「峰が丘の風」、麦焼酎及び芋焼酎「宇大浪慢」は、農場の生産物を原料として委託製造が行われ販売されています。宇都宮大学ブランドの

宇都宮大学ブランドの 酒づくりを目指した、 酵母の単離と同定

農学部 飯郷雅之 准教授

さらなる飛躍のためには、栃木県内のネットワークを生かした酒づくり、さらには宇都宮大学の構内や農場から単離された酵母を用いた酒づくりが有効であると考えられます。地域から単離した酵母を用いた地域おこしや宇都宮大学ブランドの酒づくりに活用できる酵母の単離と同定を行い、将来製品化するための礎とすることを旨とし、本事業は平成20年度に開始されました。

【問い合わせ先】
TEL: 028-619-5474
FAX: 028-619-5401
E-mail: ii.go@cc.utsunomiya-u.ac.jp

地域と学校をむすぶ コーディネーターに 関する調査研究

生涯学習教育研究センター
副センター長 廣瀬隆人 教授

生涯学習教育研究センターでは、2005年度から継続して栃木県総合教育センター生涯学習部と共同研究を進めています。研究テーマは一貫して栃木県における学校と社



産官学連携による酒造り

す。我々宇都宮大学農学部のメンバーはこの連携に加わり、研究を進めています。栃木県立栃木農業高等学校でこれまで単離された各種酵母や栃木県産業技術センターが保管する酵母株の遺伝子解析を高連携、官学連携で行うとともに、農学部の教員や附属農場職員のご協力をいただいて試料となる果実や花を集めて、酵母の

単離を現在試みています。産官学連携をさらに深め、地域から単離した酵母を用いた地域おこしや宇都宮大学ブランドの酒づくりに活用できる酵母の単離と同定を行い、将来製品化することが今後の目標です。



総合教育センター生涯学習部職員



研究成果の報告書

【問い合わせ先】
TEL/FAX: 028-649-5141
E-mail: hirotaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp

本調査では青森県でも同様の調査を同時に実施し、両県の比較研究から、栃木県の地域コーディネーターの性格や特質、今後の方向性が提示され、タイムリーでユニークな成果を得ることができました。さらに県内外のコーディネーター研修で報告書が活用され、地域コーディネーターの活動の指針となっています。



日光の紫蘇巻き唐辛子 —家内制手工業による生産—

勝道上人によって日光修験道が日光山に開かれ、そして栄えたように、日光には、山岳宗教の場として、山伏の修行が盛んに行われてきた歴史があります。このような山伏らの修験者が、地元にあった赤紫蘇の葉と唐辛子を塩漬けにして巻き、携帯食のひとつとして、体を温め寒さをしのぐ食べ物として愛用していたのが、「日光の紫蘇巻き唐辛子」の始まりと伝えられています。

現在では、毎年4月2日に輪王寺本堂で行われる、日光貢めで有名な強飯式（ごうはんしき）に登場することからも、日光の紫蘇巻き唐辛子は、日光地方において伝統的な特産品であったことを知ることができます。



紫蘇巻き唐辛子を袋から出した状態。これを1本1本包丁で細かく刻んで食べる。唐辛子によるピリッとした食感と、紫蘇の香りが特徴。そのままご飯のお伴として食べるのも美味しいが、唐揚げや天ぷらにすると美味しいらしい。また、うどんの薬味などにも使うことができる。



昔の日光市には、このような紫蘇巻き唐辛子をお土産とするお店が数多くあった。向かって左側にある、たくさんの小箱の中に並べられているのが紫蘇巻き唐辛子（写真：「油源」さん提供、初代「油源」の落合八郎さんとヒサさん。大正5～6年頃撮影）



日光は、高冷地のため、昔から紫蘇や唐辛子の栽培に向いていました。そこで昔は、JR日光駅や東武日光駅がある場所で、紫蘇の葉や唐辛子をつくっていました。しかし、昭和時代に入り、それらの畑がなくなったため、日光唐辛子は今市近郊の農家から、また紫蘇の葉は他から仕入れて、紫蘇巻き唐辛子が作られるようになりました。



日光市今市にある日光唐辛子の畑。農家も副業として、日光唐辛子の生産を支えている。



収穫された日光唐辛子。



日光唐辛子や紫蘇の葉を漬け込む樽。塩をふんだんに使い、上から重石を使って漬け込む。樽は40年ほど前に購入。樽の値段は購入当時、相当高価であったようだ。これらの樽はいまでも問題なく使うことができる。漬け込み用の塩は、赤穂の塩を使用。この倉庫には、紫蘇の香りが充満していた。

日光の紫蘇巻き唐辛子は、いまでも加工工程は機械化はなされておらず、昔ながらの手作業でつくられています。そこで、昔からの紫蘇巻き唐辛子の生産者にそのつくり方を教えてもらいました。

まず、仕込みの作業として、唐辛子は、木の樽に入れ、何度かに分けて塩をふり、押し蓋をします。押し蓋の上に重めの石を載せて漬け込み、半年から1年くらいで取り出して使用します。また、紫蘇の葉は、大きいものは1枚1枚丁寧に重ね、塩水に漬けて螺旋状に木の樽に入れます。その後、塩をふり、押し蓋をし、石の重みで漬け込み、半年ほどしてから取り出して使用します。見せていただいた倉庫の樽は、40年ほど前に購入したものとありますが、当時の会社員の給与に比べて何倍もする、とても高価なものであったそうです。また樽の中身は塩で漬け込むため、何年経過しても木の樽は腐りにくいそうです。

つぎに、漬け込みを終えた紫蘇の葉を何枚か敷いて、唐辛子1本を何等分かに割いたものと、紫蘇の葉を少し入れ、1cm程の太さに巻きます。紫蘇の葉

をちぎりながら巻かれたときの形を整えます。唐辛子は、何等分かに割く事によって、その辛味を和らげることができます。なお、唐辛子を割かずにそのまま使用する大辛の製品もあります。

最後に、1cm程度に巻いたものを7本1束とし、3束を袋に入れ、袋の口を止め、上紙を付けて完成です。できた日光の紫蘇巻き唐辛子は、消費期限として半年は持つそうですが、安全性を考慮して3カ月としているそうです。また、塩分の濃度が濃いため、保存料を使う必要がないそうです。



漬け込んだ唐辛子を、縦にいくつかに割く。唐辛子と同様に塩に漬けた紫蘇の葉の上に、割いた唐辛子を乗せ（写真上）、くるくると巻く（写真下）。唐辛子を割くことによって、唐辛子の中の塩水が外に出るため、製品として日持ちする。なお、紫蘇の葉はわれわれが普段目にするものとは比べて格段に大きい！なんでも、赤紫蘇と青紫蘇を掛け合わせて、大きくした品種を用いているそうである。



7本を1束として結び、3束をひとつの袋に入れて出荷する。取材させてもらった生産者のお宅では、二人がかりで1日約100袋が限界。

日光の紫蘇巻き唐辛子は、取材にうかがったお宅のように、手頃な家内業として昔から同じ製法でつくり続けられてきました。昭和時代には20軒から30軒程度製造していましたが、年々その数は減少し、いまではわずか数軒しか製造していません。それとともに、日光の紫蘇巻き唐辛子を販売している店が少なくなっているのが現状です。さらに、最近では、さまざまな食品に関わる安全安心を脅かす事件のせいか、衛生管理の基準がだんだんと厳しくなっています。そのため、高齢の生産者は、紫蘇巻き唐辛子の生産を断念するケースが多いそうです。

食品衛生の観点から、製造現場の衛生レベルが向上するのは、良いことだと考えられます。しかし一方で、家内制手工業によってつくり続けられてきた製品の製造過程に対して今の基準の衛生レベルの向上を義務とすると、後継者も見つかりにくい中、地方固有の食材やその製造のための技術もなくなってしまうことに繋がるのではないかと考えさせられました。

（農学部 野口良造）

*野口准教授は平成21年12月31日付で、筑波大学へ転出されました。

宇大生は 今!

今回は、今年の3月に卒業または修了する予定の学生に「在学中にやり遂げたこと」または「在学中にやり遂げなかったこと」を、4月以降も在学する学生には「在学中にやり遂げたいこと」について聞いてみました。

★卒業生に聞く★ 在学中にやり遂げたこと やり遂げなかったこと

国際学部

- TOEICで900点台を取ったこと。(4年 ♀)
- 外国人も含めて、たくさん友達を作れたこと。(4年 ♀)
- 友達と思いきい遊んだこと。海外に行ったこと。アルバイトを続けたこと。(4年 ♀)
- 初めてのアルバイトで社会人感覚を身につけ、真面目に取り組んだ。(4年 ♀)
- 1人暮らしを経験して、自炊ができるようになった。(4年 ♀)



教育学部

- 教員免許を取得して、小学校の先生になるというスタートラインに立てるようになった。(4年 ♀)
- 所属する研究室の先生の研究を手伝ううちに、自分も専門の知識を得ることが出来た。(4年 ♀)
- 卒業論文、卒業制作で、みんなより良いものを作ろうと頑張った。(4年 ♀)
- 部活を頑張り続け、主将にまでなれた。(4年 ♀)
- 新入生歓迎スポーツ大会と学祭スポーツ大会に両方とも出場した!!(4年 ♀)



工学部

- よい良い結果を出るために、研究に没頭した!(院2年 ♀)
- 就職活動を頑張って、希望あるところから内定をもらった!!(4年 ♀)
- 夏休みに自転車で一人旅に出かけた!(4年 ♀)
- 宇都宮のおいしいお店をたくさん見つけた。(4年 ♀)
- 在学中は電気主任技術者試験に合格出来なかったが、機会があればまた挑戦したい。(院2年 ♀)

農学部

- 植物の名前と特徴をたくさん覚えて、友達に教えてあげられるようになった。(院2年 ♀)
- 専攻したことを活かせる職場から内定をもらうことが出来た。(4年 ♀)
- 友達とシンカーで遠出して、心に残る思い出を作ることが出来た。(4年 ♀)
- 一生懸命勉強して、公務員試験に合格した。(4年 ♀)
- 同じアルバイトを4年間やり続けた。お金もたくさん貯まった。(4年 ♀)
- 時間があれば英語等のスキルを身に付けたかった。卒業しても勉強は続けたい。(4年 ♀)



★在學生に聞く★ 在学中にやり遂げたいこと

国際学部

- アルバイト、海外渡航、バンドなど高校時代にできなかったことを存分にやる!(1年 ♀)
- ヨーロッパ1周旅行をやる。(2年 ♀)
- 小学生を相手にボランティアをやる。(2年 ♀)
- アルバイトで200万円以上稼いで、車を買う。(1年 ♀)
- アルバイトやサークル活動でたくさん思い出を作る。(2年 ♀)



教育学部

- 教育実習を頑張り、少しでも良い先生になれるよう努力したい。(2年 ♀)
- 学校支援ボランティアとしてたくさんの子とも触れ合いたい。(1年 ♀)
- サークル活動で定期的に演奏会をしたい。(1年 ♀)
- 海外でのボランティア活動に参加すること。(2年 ♀)
- 絵を勉強して、漫画を描いて投稿してみたい。(1年 ♀)



工学部

- いろいろな資格が取得出来るので、就職のためにも頑張りたい!(2年 ♀)
- しっかり単位を修得して、いろいろな専門知識を身につけたい!(3年 ♀)
- 最後までしっかり勉強をやり遂げたい。(3年 ♀)
- 卒業まで今のアルバイトをやり続けたい。(2年 ♀)
- 禁煙。(3年 ♀)



農学部

- 宇都宮大学を、環境が農業に関することで有名にする。(2年 ♀)
- 1度でいいから成績で1番をとる。(1年 ♀)
- 資格をたくさんとるぞ!!(1年 ♀)
- 希望する職種の内定がもらえるように努力したい。(2年 ♀)
- ダイエット!(2年 ♀)

Circle pin-up

初めまして、宇都宮大学ハンドボール部です。突然ですが、みなさんは宇大ハンド部の存在を知っていますか?初めて聞いたという人が多いと思いますので、紹介から始めたいと思います。現在活動しているハンド部は、3年前に創部されました。私が1年生の頃、先輩(3人)の勧誘で集まったのが私を含めて3人の新入部員でした。当時はボロボロのボールで、体育館に自分達でラインを引いて練習していました。勧誘の甲斐あって徐々に人数が増えていき、今ではインターハイ出場経験者から初心者まで、男女合わせて約20人が所属しています。



昨年の9月には、男女共に念願の関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦に出場することができました。初参加のため、男子7部・女子2部という最下部での試合でした。女子は「楽しんでプレーする」を

サークル紹介 ハンドボール部



目標に、人数が足りず、相手より少ない人数で試合をする日もありましたが、互いに励まし合い最後まで諦めずに戦い続けました。男子は「6部昇格」という目標を掲げ、熱心に練習を重ねました。リーグ戦では、7部内では強豪校である玉川大学・杏林大学と互角の試合をしました。得失点差で1位となり、入替戦に臨みました。最終戦は特に接戦でしたが、終了直前に同点となり延長戦へ。6部昇格が決まりました。その時の感動と興奮はとて心に残っています。

今年は昨年以上に飛躍したいと思っています!ハンドボールは青春です!これを読んでいる経験者の方、もちろん初心者の方も大歓迎ですので、私たちとさわやかな汗を流しませんか?

連絡先: 久保 麻衣子 (国際学部国際文化学科3年)
TEL : 080-1840-5765
E-mail : kentan_umechan_hanachan@docomo.ne.jp

学位記授与式・入学式

学位記授与式：平成22年3月24日(水)10:30～ 宇都宮市文化会館大ホール
入学式：平成22年4月8日(木)13:30～ 宇都宮市文化会館大ホール



宇都宮大学ホームページ URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp>

卒業研究・修了研究 公開発表会

平成21年度
宇都宮大学教育学部音楽教育専攻
大学院教育学研究科修士課程
音楽教育専修

日時：平成22年2月27日(土)
17:30開演(17:00開場)
場所：宇都宮市文化会館小ホール
内容：声楽、器楽、他

入場無料

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部音楽教室
TEL/FAX 028-649-5357

最終講義

国際学部最終講義
石濱 昌宏 教授
「私と映像」

日時：平成22年2月9日(火)
14:30～16:00
場所：放送大学栃木学習センター
大講義室(宇都宮大学構内)

参加無料

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学国際学部総務係
TEL 028-649-5164
koksomu@miya.jm.
utsunomiya-u.ac.jp

宇都宮大学・読売新聞共催公開講座

日時：3月13日(土)13:30～15:30
場所：宇都宮大学大学会館多目的ホール
テーマ：「地域の発展に向け栃木県と宇都宮大学に
求められること(仮題)」

【パネリスト(予定)】
福田富一・栃木県知事
中西 茂・読売新聞東京本社調査研究本部
研究員(前編集委員・教育担当)
進村武男・宇都宮大学長
石井 清・宇都宮大学地域共生研究開発センター
センター長/教授
【コーディネーター(予定)】
廣瀬隆人・宇都宮大学生涯学習教育研究センター
副センター長/教授

入場無料

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学生涯学習教育研究センター
TEL 028-649-5144 FAX 028-649-5145
syougai@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

外国人留学生と地域交流団体等 との交流会

日時：平成22年3月3日(水)12:30～18:30
場所：宇都宮大学大学会館

内容：12:30～15:00【体験コーナー】
茶道、和服着付け、華道
15:00～16:50【サークル等の発表】
箏、日本舞踊、ていーだ太鼓
17:00～18:30【懇親交流パーティー】

入場無料



●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学学務部学生支援課 TEL 028-649-5099

さくらフェスタ2010 **入場無料**

今年も、お花見真っ盛りの週末に
「さくらフェスタ2010」を開催します！

日時：平成22年4月3日(土)、4日(日)
場所：宇都宮大学陽東(工学部)キャンパス
このイベントは、「市民の皆さんに宇都宮大学に親んでいただきたい」という教職員の気持ちから生まれた手作りイベントです。昨年まほかば陽気も手伝って、おかげさまで600人以上の方が訪れる大盛況になりました。
丈夫で大きなシャボン玉、ロボットや電気自動車、手作りおもちゃ、ミニコンサートなど、今年もちびっ子からご年配の方までお楽しみいただける企画を予定しております。お花見のついでにぜひお立ち寄りください。



●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学工学部総務係 TEL 028-689-6002、6005

公開研究会

研究主題
「ICFを活用した個別の
教育支援計画の在り方」
～豊かな社会生活を
送るために～

日時：平成22年2月19日(金)
9:50～16:00
場所：宇都宮大学教育学部
附属特別支援学校
内容：公開授業、講演会、
全体会、分科会

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部
附属特別支援学校
TEL 028-621-3871

オープンキャンパス (2010年度)

全学オープンキャンパス
平成22年8月1日(日)開催決定！
最新情報は、本紙や本学公式ホームページで随時
お知らせします。



●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学企画広報室 TEL 028-649-8649

研究 Keyword

発達障害とは

「社会で自立するために」

宇都宮大学教育学部教授 梅永雄二

UU laboratory



「構造化」といった目で見てわかりやすい教材を使って指導を受けている自閉症幼児の様子



PROFILE

筑波大学修士課程教育研究科障害児教育専攻修了
学位：教育学博士
資格：臨床心理士、特別支援教育士SV、自閉症スペクトラム支援士Expert
その他：TODDS（栃木発達障害研究会）代表、ALAAHFA（LD、ADHD、アスペルガー症候群および高機能自閉症の成人）研究会代表、2006-2007国際ロータリークラブ親善奨学生（ノースカロライナ大学医学部精神科TEACCH部）

教育学部教授 梅永雄二

しかし、知的に全く問題がなく知能検査などで高い数値を示す自閉症児がいます。高機能自閉症あるいはアスペルガー症候群と呼ばれる人たちがこれに該当します。イギリスのイアン・ジェイムズ教授によると、ミケランジェロ、ニュー

「構造化」といった目で見てわかりやすい教材を使って指導を受けている自閉症幼児の様子

(1) 自閉症とアスペルガー症候群
自閉症という言葉は「引きこもり」や「落ち込んでいる」など「心の病」のイメージが湧くのではないかと思います。自閉症は脳の器質的損傷による生まれながらの障害なのです。具体的には「対人関係がうまくいかない」「コミュニケーションを取る事が難しい」「想像力に限界があるため、一つのことに強くこだわってしまう」などの特徴を有しています。知的障害を有している自閉症児も多く、その場合は言葉を全く発しないか、言葉があったとしてもオウム返しになります。



もの名前を教えるために目で見てわかりやすくした教材

(2) LD
LDとはLearning Disabilitiesの略語でわが国では「学習障害」と訳されています。これも学業不振児や学習遅滞児と混同されがちですが、自閉症と同じく脳の損傷による先天性の発達障害なのです。LD児は主に「文字を読むこと」「文字を書くこと」「計算すること」などに困難を示すため、小学校が上がって国語や算数の授業についていけないことからわかるといったことが多いです。LD児の中には目から入ってくる情報がゆがんでしまうため、「b」と「d」の区別がつかなくなったり、「わ」と「れ」などの似たような文字に混乱してしまうことがあります。ハリウッドの俳優トム・ク

(1) 自閉症とアスペルガー症候群
自閉症という言葉は「引きこもり」や「落ち込んでいる」など「心の病」のイメージが湧くのではないかと思います。自閉症は脳の器質的損傷による生まれながらの障害なのです。具体的には「対人関係がうまくいかない」「コミュニケーションを取る事が難しい」「想像力に限界があるため、一つのことに強くこだわってしまう」などの特徴を有しています。知的障害を有している自閉症児も多く、その場合は言葉を全く発しないか、言葉があったとしてもオウム返しになります。

(2) LD
LDとはLearning Disabilitiesの略語でわが国では「学習障害」と訳されています。これも学業不振児や学習遅滞児と混同されがちですが、自閉症と同じく脳の損傷による先天性の発達障害なのです。LD児は主に「文字を読むこと」「文字を書くこと」「計算すること」などに困難を示すため、小学校が上がって国語や算数の授業についていけないことからわかるといったことが多いです。LD児の中には目から入ってくる情報がゆがんでしまうため、「b」と「d」の区別がつかなくなったり、「わ」と「れ」などの似たような文字に混乱してしまうことがあります。ハリウッドの俳優トム・ク

(3) ADHD
ADHDとはAttention Deficit Hyperactivity Disorderの略で「注意欠陥多動性障害」と訳されています。ADHDは「不注意」「多動」「衝動性」で定義されており、「教室ですぐと椅子に座っていられずすぐに立ち歩いてしまう」「物を忘れがちで片づけられない」「順番がまもれない」などの特徴を有しています。

(4) 発達障害への支援
これらの発達障害は、従来障害者として認められませんでした。障害者とは視覚や聴覚、肢体、身体の内部に何らかの損傷がある身体障害、知的に明白な遅れがある知的障害、そして統合失調症や躁うつ病などの精神障害の3種類だけでした。これらのどこにも属さない発達障害者に対して彼らにも支援が必要であると、平成17年に「発達障害者支援法」が施行されました。



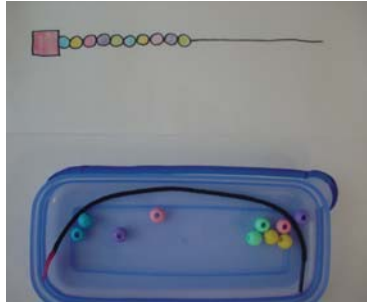
時計の時間を教えるために目で見てわかりやすい教材

これらの発達障害は、従来障害者として認められませんでした。障害者とは視覚や聴覚、肢体、身体の内部に何らかの損傷がある身体障害、知的に明白な遅れがある知的障害、そして統合失調症や躁うつ病などの精神障害の3種類だけでした。これらのどこにも属さない発達障害者に対して彼らにも支援が必要であると、平成17年に「発達障害者支援法」が施行されました。

これらの発達障害は、従来障害者として認められませんでした。障害者とは視覚や聴覚、肢体、身体の内部に何らかの損傷がある身体障害、知的に明白な遅れがある知的障害、そして統合失調症や躁うつ病などの精神障害の3種類だけでした。これらのどこにも属さない発達障害者に対して彼らにも支援が必要であると、平成17年に「発達障害者支援法」が施行されました。

この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。

この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。



ひもとおしをする際にモデルを示して目で理解できるようにわかりやすい教材

この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。

この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。

この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。

その結果、医療・教育・福祉・労働などの分野で発達障害の理解が徐々に進み、その支援も広がってきています。私の研究室にも現在5歳の自閉症児が毎週通ってきています。彼は意味のある言葉がないため絵カードによるコミュニケーション指導を行っています。これは自閉症支援の最先端といわれている米国ノースカロライナ大学医学部精神科TEACCH H部で開発された「構造化による指導」といわれるものです。「構造化による指導」とは本人を変えてではなく、本人の周りの環境をわかりやすくすることによって、自立した生活を構築していくといった方法です。この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。

◇大晦日に夜空を見上げると、寒々としたなかで、くっきりと満月。せつなく満月を迎えた2010年です。今年も明るく行きたいと思えます。うさぎ、なに見て跳ねる（わらべ歌）というより、「ソラソラ ソラ ソラ うさぎのダンス」ラッタ ラッタ ラッタ ラッタ（野口雨情作詞）で行きたい。◇1面の金田瞳さんは、ほんとにポジティブで明るい女性でした。取材をした時、彼女から温かさを感じました。◇2、3面は「宇都宮大学」ブランドを考へるシンポジウムをメインに創立60周年記念事業の案内です。◇4面は、平成20年度地域貢献支援事業を3つ紹介します。◇5面は「スローワード」：日光の紫蘇巻き唐辛子」。20回目の連載でしたが、野口先生の転出でこれが最終回。愛読者のひとりとしてほんとうに残念です。◇6面の宇大生アンケートは、「卒業生に聞く、在学中にやり遂げたこと。在学生に聞く、在学中にやり遂げたいこと。」下欄にはハンドボール部の活動を紹介します。◇7面は、学内各部署からのインフォメーションを集めました。◇8面の研究キーワードは、梅永先生の「発達障害とは」社会で自立するために。支援についての研究を紹介しています。（編集委員T）

この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。

この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。

この考え方は「障害」というものが本人に帰するものではなく、環境との相互作用によって生じるものというICF（国際機能分類）と意を同じくするものです。すなわち近視の人が眼鏡やコンタクトを使用するように、車いすの人がエレベーターやスロープを使用するように、自閉症の人は言葉による指導ではなく絵や写真などの「視覚的な指示」の方が理解しやすいために、そのような環境を設定してあげるのです。

宇都宮大学
省エネキャンペーン
節約！エネルギー

12月3日

地球の為に電気をOFF

照明は19℃以下に	エアコンフィルターの掃除をしよう!!
12月 35,000	440,000
12月 37,000	470,000
12月 37,000	470,000
合計	288,000 3,640,000

宇都宮大学環境・施設整備委員会
http://www.utsunomiya-u.ac.jp/

■広報室では、皆様の声をお待ちしております。
ご意見・ご要望などをお寄せください。
【宛先】
宇都宮大学 企画広報室
〒321-8505 宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
E-mail plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

企画・編集
宇都宮大学広報室
UU now 第20号編集委員

編集後記
企画・編集
宇都宮大学広報室
UU now 第20号編集委員

編集後記
企画・編集
宇都宮大学広報室
UU now 第20号編集委員

編集後記
企画・編集
宇都宮大学広報室
UU now 第20号編集委員